

大学の 教育力を 発信する

2016年度
第22回
FDフォーラム

2017年3月4日(土)
京都コンサートホール 大ホール

2017年3月5日(日)
教養教育共同化施設「稲盛記念会館」
(京都府立大学下鴨キャンパス内)



大学の教育力を発信する～教養教育改革と現代社会～

大学において、常に必要論と不要論の間を振り子のように揺れ動いてきた領域が教養教育である。2015年に話題となった「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」という文書も、社会的要請の高い分野への転換を求める文系不要論とも読めるものであった。このように、役に立つ教育が産業界から常に求められる一方で、なぜ教養教育はなくなりそうでなくなるのか。

昨今、中央教育審議会による答申が矢継ぎ早に出され、聞き慣れないカタカナの改革用語が次々と登場し、対応に戸惑うことも多い。政策誘導に向き合いながらも、教学改革を担うのは、あくまで個々の大学の主体的な行動である。学生の学力も意欲も多様化している中、教養教育カリキュラムにはどのような改善が必要なのか。大綱化後20年以上たった今、教養教育を担う全学組織はどのような課題に直面しているのか。「教養教育(全学共通教育)の改革姿勢を見れば、その大学の教育力は自ずと浮かび上がってくるのではないか」というのが本シンポジウムの問題意識である。

シンポジスト



林 哲介氏 京都三大学教養教育研究・推進機構 特任教授/京都大学名誉教授

経歴

京都大学において教養部教授、総合人間学部教授、副学長、高等教育研究開発推進機構長を歴任。星城大学学長、京都工芸繊維大学副学長を経て、現職。

主な活動、著書

京都大学における物理学を中心にした教養教育の経験から、歴史的、思想的なふまえた教養教育改革論を提唱している。現在、京都工芸繊維大学・京都府立大学・京都府立医科大学の共同化教養教育において

「エネルギー科学」「科学と思想」を担当している。文系・理系の学生、大学受験で物理を選択した学生、選択しなかった学生など、様々な学生が混在する教室で求められる教養教育カリキュラム・授業設計を研究している。学生同士のグループ協同学習や現代社会の諸問題の討論により、基礎的リテラシーの学習と現代社会の諸問題の科学的検討を組み合わせる授業に取り組んでいる。

『教養教育の思想性』ナカニシヤ出版、2013年。

『科学のセンスをつかむ物理学の基礎—エネルギーの理解を軸に』

京都大学学術出版会、2006年。

『教養教育の本流II』『大学教育学会誌』第37巻第2号、2015年。



日比 嘉高氏 名古屋大学大学院文学研究科 准教授

経歴

筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科修了。博士(文学)。筑波大学文芸・言語学系助手、京都教育大学教育学部講師、准教授を経て現職。

主な活動、著書

名古屋大学では、近現代の日本文学・文化に関する教育と研究を行っている。専門領域としては、私小説、移民文学、出版文化などを中心に取り組んでいる。国内での学会活動だけでなく、近年は複数の国の研

究者が参加する日本文学研究に関する学術フォーラムの運営にも携わる。国立大学の文系学部廃止・再編問題が起こった際、ブログ、雑誌、新聞などで発言を始め、単著『いま、大学で何が起きているのか』を刊行した。その後、この問題に関わる各地でのシンポジウムや講演会に招かれる機会が増えている。

『文学の歴史をどう書き直すのか—二〇世紀日本の小説・空間・メディア—』笠間書院、2016年。

『いま、大学で何が起きているのか』ひつじ書房、2015年。

『ジャパニーズ・アメリカ—移民文学・出版文化・収容所—』新曜社、2014年。



鬼塚 哲郎氏 京都産業大学 F工房事業統括/文化学部 教授

経歴

神戸市外国語大学外国語学研究科イスパニア語学修了。

主な活動、著書

京都産業大学では「キャリア・Re-デザイン」「スペイン語I」などを担当し、全学的な教育支援組織「ファシリテーション工房(F工房)」の活動を推進している。「キャリア・Re-デザイン」は大学に入学したものの「勉学への意欲が湧かない」「大学に居場所がない」といった気持ちを抱えて

いる学生が、「学習や大学生活に対するモチベーションの再発見」を目的に開講している科目である。グループワーク型の授業を徹底し、学生同士だけでなく教員や事務職員、社会人の方々を迎え、「対話」を繰り返しながら自分がどう生きていきたいかを見つめ直す学生支援型教育を実践している。

鬼塚哲郎・中西勝彦「低単位・低意欲層に向けたキャリア形成支援教育科目「キャリア・Re-デザイン」における受講生の変化」『高等教育フォーラム』第4号、2013年。

鬼塚哲郎・大谷麻予(連載)対話を通じた学び支援:京都産業大学の取り組み 学生による学生支援『文部科学教育通信』No.376、2015年。

コーディネーター



児玉 英明氏 京都三大学教養教育研究・推進機構 特任准教授

経歴

京都大学大学院人間・環境学研究科環境相関研究専攻博士後期課程単位取得認定退学。高崎経済大学経済学部等を経て現職。

主な活動、著書

高崎経済大学、京都三大学教養教育研究・推進機構において、初年次・教養教育科目「論文の読み方・書き方」「現代社会に学ぶ問う力・書く力」を担当し、ライティング教育を中心とした教養教育改革に従事している。レパラルアーツ・ゼミナール「社会科学の学び方」では、古典精読

に映画鑑賞を組み合わせることで、様々な学習履歴をもった学生に学びきっかけをつかませる工夫を行っている。専門科目では基礎学力に不安を抱える学生を対象にした「経営管理論」のリメディアル教材を研究し、商業高校との高大連携のあり方を研究している。

「大学の教育力を測る新しい指標の登場と教養教育の再構築—教育情報の公表に関する高等教育政策との接点において—」高崎経済大学附属産業研究所編「高大連携と能力形成」日本経済評論社、2013年。

「問う力・書く力を鍛える表現教育—教養教育の本質をふまえた再構築の指針—」『成城大学共通教育論集』第7号、2015年。

「吉野源三郎「君たちはどう生きるか」に学ぶ教養教育の原理像と思想性」『時代が求める新たな教養教育 報告書』2016年。

スケジュール

	時間	内容	会場
3月4日(土)	12:00	受付開始	京都コンサートホール 大ホール
	13:00~17:00	シンポジウム	
	17:30~19:00	情報交換会	
3月5日(日)	9:00	受付開始	教養教育共同化施設「稲盛記念会館」 (京都府立大学下鴨キャンパス内)
	10:00~12:00	分科会(午前の部)※1)	
	12:00~13:30	休憩 ポスターセッションコアタイム※2)	
	13:30~15:30	分科会(午後の部)※1)	

※1)申込みをされた分科会以外には参加することはできませんのでご注意ください。午前と午後は同じ分科会への参加となります。

※2)ポスターセッションは2日目の11:00~15:30にポスターを掲出いたします。コアタイムには、発表者がポスター前で参加者からの質問に答えます。

イマドキの大学教育と「よい学び」 ～共創ワークショップでみつける初年次 教育・共通教育の課題と実践のヒント～

第1分科会

表題のテーマ、特に「学生を動機づけ励まし、そして学生と共に学ぶこと」に焦点をあてた企画です。前半部では会場の全員が参加する共創ワークショップにより課題発掘をおこない、その結果を交わし合います。後半部では、登壇者からの事例報告と質疑応答・ディスカッションをおこない、参加者それぞれに新たな気づきや発想がうまれること、そして「変えてみよう／変えなければ」という気持ちが高まることを期待します。

コーディネーター 佐藤 賢一氏 京都産業大学 総合生命科学部 教授
報告者 居神 浩氏 神戸国際大学 経済学部 教授
松本 美奈氏 読売新聞 専門委員
松尾 智晶氏 京都産業大学 共通教育推進機構 准教授
久保 秀雄氏 京都産業大学 法学部 准教授

定員 160名
優先定員 100名

学部ゼミナールで いかに学習成果を高めるか

第5分科会

近年、アクティブラーニングの導入や促進が叫ばれるが、教員と学生同士の緊密な対話によって学習成果をもたらす「ゼミナール教育」への言及は必ずしも十分とはいえず、その実践もブラックボックス化している。本分科会では、人文・社会科学領域の豊かなゼミナール教育実践報告を基礎としたパネルディスカッションと参加者同士のグループディスカッションを通じて、より良い学部ゼミナール教育の在り方を模索する。

コーディネーター 西野 毅朗氏 京都橋大学 教育開発支援センター 専任講師
報告者 高杉 直氏 同志社大学 法学部 教授
安達 太郎氏 京都橋大学 文学部 教授
矢野 修一氏 高崎経済大学 経済学部 教授

定員 80名
優先定員 45名

理系基礎教育のデザインをめぐって

第2分科会

理系の優れた教育実践報告には「素晴らしいが、うちに合うか?」のような声も仄聞する。しからば、「実践や設計に関するメタレベルの観点ならば、即効性はなくとも幅広く役立つのではないか」という発想で分科会を企画した。理系基礎カリキュラムの設計思想、組織的・体系的学習支援の設計・実装思想、数学コンピテンシー調査に基づく理系数学基礎教育の要点について3名にご講演頂き、その後にはフロアも交えて討論したい。

コーディネーター 上野 嘉夫氏 京都薬科大学 基礎科学系 教授
報告者 青木克比古氏 金沢工業大学 数理工教育研究センター顧問/教授
小笠原正明氏 一般社団法人大学教育学会 会長/北海道大学名誉教授
水町 龍一氏 湘南工科大学 情報工学科 准教授

定員 120名
優先定員 70名

教学改革を担う「中間的リーダー層」 教員のホンネと希望 ～ミドル・マネジメントのありかた～

第6分科会

教学運営や教育改革では教学部長、〇〇機構長、〇〇センター長、〇〇室長など「中間的リーダー層」が大きな役割を担っている。職員と協働し、会議や調整のために時間が割かれ負担は大きい、教育や研究をおろそかにしたくない、そんな「中間的リーダー層」教員の悩み、やりがいなどホンネと希望、ミドル・マネジメントのあり方をグループワークも交えて考えたい。中堅・若手教員や職員など様々な方の参加を募る。

コーディネーター 岡崎 祐司氏 佛教大学 社会福祉学部 教授/教育推進機構長
報告者 並松 信久氏 京都産業大学 経済学部長
山本 啓一氏 北陸大学 未来創造学部 教授/学長補佐
山崎 その氏 京都外国語大学・京都外国語短期大学 総合企画室次長

定員 60名
優先定員 35名

教育の多様化の中での 女子大学という選択

第3分科会

女子学生にはライフコース、キャリアパスを設計する上で男子学生より乗り越えなければならない課題が多くあることは時代を超えた普遍的な事実である。女子大学には、急速に変容する社会の中で、親世代とは異なる未知の生き方を模索することを迫られた女子学生の漂流する想いを受け止める場のひとつとして一定の役割があると考えられる。今回の分科会を女子大学のこれからのあり方について共に探り、語り合う機会としたい。

コーディネーター 藤原 智子氏 京都ノートルダム女子大学 生活福祉文化学部 教授
報告者 内田 樹氏 神戸学院大学名誉教授/京都精華大学客員教授/昭和大理事
岩崎 れい氏 京都ノートルダム女子大学 人間文化学部 教授
私市佐代美氏 武庫川女子大学 情報システム室 室長

定員 120名
優先定員 70名

大学と劇場、博物館、美術館

第7分科会

プロジェクト科目等の設置により、大学は地域に貢献する機会を持つようになった。しかし実際の町おこしなどの結果に結びつく活動はわずかであったように思える。そして文化資源、特に、劇場や博物館、美術館などの公共施設と大学との連携はあまりはかられてないのが現状だ。大学と文化資源との関係を再考し、学生の学びの場をキャンパス外にも求めることができないうだろうか。このような問題意識を共有できる場にしたい。

コーディネーター 川島 健氏 同志社大学 文学部 教授
報告者 鋤柄 俊夫氏 同志社大学 文化情報学部 教授
宮崎刀史紀氏 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団
ロームシアター京都 管理課長
井上 由佳氏 文教大学 国際学部 専任講師

定員 60名
優先定員 35名

自大学の文脈を踏まえた FDの企画・運営

第4分科会

大学でFDを進める上において、自分の大学にあったFD研修を企画・運営していくことが重要となる。そのためには、大学の中にある情報の共有、問題の確認、教員と職員との連携、相互理解などが必要となる。本分科会では、報告者による大学のFD研修の事例を紹介した上で、ワークを通して自分の所属する大学の文脈を考慮したFD研修の企画を行い、運営について考える。

コーディネーター 村上 正行氏 京都外国語大学 マルチメディア教育研究センター 教授
報告者 高森 智嗣氏 福島大学 総合教育研究センター 准教授
岩崎 千晶氏 関西大学 教育推進部 准教授
物部 剛氏 京都産業大学 教育支援開発センター事務局 事務局長

定員 80名
優先定員 45名

健康医療系専門教育： 学ぶ側の主体性、満足度、 理解度を引き上げる

第8分科会

医療系大学に於けるFDについて。特に、実習指導能力の向上をいかに身につけていくか。併せて、医療系学生が将来の自分のキャリアに役立つ膨大な医学・看護学の知識を理解し短期間で吸収するための効率の良い教育の方法についても考えたい。発表テーマ：屋宜氏「学生の主体性を育てる教員の力～実習指導を中心に～」、西井氏「専門知識→医療分野：～医療分野の教育実績より～」、谷口氏「健康・スポーツ系学科における健康運動指導者育成の実践的取り組み」

コーディネーター 古倉 聡氏 京都学園大学 健康医療学部 教授
報告者 屋宜譜美子氏 天理医療大学 看護学科 学科長
西井 重超氏 産業医科大学 精神医学教室 平成26・27年度教育医長
谷口 有子氏 京都学園大学 健康医療学部健康スポーツ学科 教授

定員 60名
優先定員 35名

※分科会はいずれか一つをお申込みいただけます。
 ※分科会の詳細につきましては、大学コンソーシアム京都HPに随時掲載します。
 ※大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学の先行申込期間には、優先定員を設けます。

学生の学生による学生のための ラーニングコモンズ

第9分科会

現在、名称や形態は様々だが、いわゆる「ラーニングコモンズ」が、多くの大学で設置されている。しかしながら、学修環境として教職協働で有機的に運用している大学がどれほどあるだろうか。本分科会では、コモンズの運用やコモンズを拠点とする活動について、学生を主体に展開している大学の事例をもとに、「学生の学生による学生のためのラーニングコモンズ」のあり方を考えてみたい。

コーディネーター兼 報告者 **長谷川 岳史氏** 龍谷大学 学修支援・教育開発センター長/
経営学部 教授
報告者 **巳波 弘佳氏** 関西学院大学 学長補佐/理工学部 教授
伊藤 守弘氏 中部大学
学生教育推進機構コモンズセンター長/
生命健康科学部 准教授

定員 **60名**
優先定員 **35名**

授業とフィールドワーク ～教室の中と外をどうつなぐか～

第13分科会

文学部など、必ずしも研究にフィールドワークが含まれない分野で、教室外での学びを教育に取り入れることは有効だろうか。有効だとすれば、どのような活動を設定し、教室での授業とどう連携すべきだろうか。資料講読等を中心とした従来型の授業に飽き足らず、かといって教室外活動にも踏み出せないでいる教員のために、様々な実践例を持ち寄り、新しい授業のアイデアが得られるようなワークショップを目指したい。

コーディネーター **藤田 義孝氏** 大谷大学 文学部 准教授
報告者 **橋爪 孝夫氏** 山形大学 教育開発連携支援センター 講師
成瀬 尚志氏 京都光華女子大学短期大学部 講師
大原 ゆい氏 大谷大学 文学部 講師

定員 **40名**
優先定員 **24名**

教養教育としての自校教育 ～「建学の精神・理念」の 具現化にまつわる課題と展望～

第10分科会

高等教育の質保証が問われる昨今、「自校教育」の関連科目においても当然厳格な成績評価基準が求められる。自校教育科目における「評価」とは何なのか。また、どうすればそれが大学の理念や「建学の精神」の具現化に結び付くのか。私立大学のみならず国公立大学においても重視されつつある自校教育について、その位置付けや具現化の実例などを紹介し、現代社会における自校教育の意義・課題・展望について広く意見交換を行いたい。

コーディネーター **林 雅清氏** 京都文教大学 臨床心理学部 専任講師
報告者 **大川 一毅氏** 岩手大学 評価室 教授
葛城 浩一氏 香川大学 大学教育基盤センター 准教授
小崎 眞氏 同志社女子大学 宗教部長/生活科学部 教授

定員 **60名**
優先定員 **35名**

災害復興支援活動における 現場の教育力

第14分科会

いわゆる15回授業などを強く指導する方針が貫かれる中、東日本大震災及び平成28年熊本地震など、大規模災害の発生時にボランティア活動のための修学上の配慮が求められる傾向がある。そこで阪神・淡路大震災以降の学生ボランティアの動きから、非常時にフィールドで経験する実践的な学びの意味と、日常的にデスクとフィールドを往復する学びの意義を比較し、アクティブラーニングの時代の学びのシステムとスタイルを検討する。

コーディネーター **山口 洋典氏** 立命館大学 共通教育推進機構 准教授
報告者 **松田 曜子氏** 長岡技術科学大学 環境社会基盤工学専攻 准教授
石原 凌河氏 龍谷大学 政策学部 講師
コーディネーター **木村 充氏** 東京大学 大学総合教育研究センター 特任研究員

定員 **40名**
優先定員 **24名**

学生の主体的な学びと自律性を育む 教育の可視化を探究する

第11分科会

各大学では教育の可視化(3ポリシー、カリキュラムマップ、ルーブリック、ポートフォリオ、IRなど)が改革の中心となっている。果たして学生の主体的な学び(学習)や自律性(発達)は促されているのか。AP事業の採択校として既に教育の可視化に取り組んでいる識者を迎え、各大学における事例紹介に加え、この問いを参加者と共有しながら、学生の主体的な学びと自律性を育む教育の可視化の在り方を探究する。

コーディネーター **山田 剛史氏** 京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授
報告者 **大森 昭生氏** 共愛学園前橋国際大学 学長/教授
阿部 一晴氏 京都光華女子大学 キャリア形成学部 教授
森 朋子氏 関西大学 教育推進部 教授

定員 **60名**
優先定員 **35名**

教養としてのライフスキル

第15分科会

現代を生きる私たちに必要なライフスキル、生きるための能力は何か。世界保健機関(WHO)は「日常の様々な要求に対し、より建設的かつ効果的に対処するために必要な能力」と定義している。ここでは、大学教育、生活のなかで多様な問題をかかえている今の学生にとって、重要なライフスキルは何か。大学での実践報告、ワークショップを通して語り合う機会としたい。

コーディネーター **安江 勉氏** 京都教育大学 教育学部 准教授
報告者 **北山 敏和氏** ライフスキル講師(フリーランス)
関口 久志氏 京都教育大学 教育支援センター長/教授

定員 **30名**
優先定員 **18名**

「アクティブ・ラーニング」から 「インタラクティブ・ラーニング」へ ～【教育アップデート】アクティブ・ラーニングの次の教育をさぐる～

第12分科会

午前の部は、カードゲーム(カタルト)を使用したコミュニケーションの研究報告と、新たに開発したカードゲームアプリを使用したワークショップを行う。アプリを活用したインタラクティブ・ラーニングの可能性をさぐる。午後の部は、大学や企業など、色々な現場で活用されるインタラクティブ・ラーニングの事例を紹介する。様々な視点からアクティブ・ラーニングの次の教育をさぐる。

コーディネーター **森原 規行氏** 京都精華大学 デザイン学部 教授/教務部長
報告者 **熊野 森人氏** 株式会社エスレディ2 代表取締役
倉成 英俊氏 電通総研アクティブラーニングこんなのどうだろう研究所 所長
協力者 **福元 和人氏** メドラボ代表
熊野 陽人氏 東海大学 体育学部 非常勤講師/博士(体育学)

定員 **40名**
優先定員 **24名**

情報交換会

京都コンサートホール 大ホール ホワイエ

1日目 3月4日(土) 17:30～19:00

ポスターセッション

教養教育共同化施設「稲盛記念会館」
1F・2F廊下

2日目 3月5日(日)

ポスターセッション 11:00～15:30
コアタイム 12:00～13:30

※コアタイムには、発表者がポスター前で参加者からの質問に答えます。ポスターセッションでは、大学コンソーシアム京都加盟校の教職員・学生が特徴的な取り組みを発表します。新たな情報収集や、参加者間の交流の場としてご利用ください。

申込期間 2017年1月5日(木)～1月26日(木) 【参加費支払締切: 2017年2月10日(金)】

加盟大学・短期大学先行申込期間 2016年12月16日(金)～12月23日(金)

先行申込期間終了後も1月26日(木)まではお申込みいただけます。

※大学コンソーシアム京都に加盟する大学・短期大学の教職員・学生の方を対象に、先行申込期間を設けています。なお、先行申込期間中は、優先定員までの受付となります。加盟校以外の方は1月5日以降にお申込みください。

申込方法(Web申込のみ) ※フォーラム当日の申込受付は行っていません。

STEP 1

お申込み(先着順)

- ・申込みは先着順に受け付け、定員になり次第終了となります。
- ・申込み手続き完了後は、分科会の変更ができませんのでご注意ください。
- ・申込み手続きおよび参加費の支払いが完了していない方は参加できません。

- 1 下記のURLから「メールアドレス確認(入力)フォーム」にアクセスし、メールアドレスを入力・送信してください。
- 2 「参加申込フォーム」のURLをお送りしますので、メールに記載のURLにアクセスし、画面の指示に従って申込み手続きを行ってください。申込み手続き完了後に「申込完了メール」を送信します。

※「参加申込フォーム」URL通知メールが届かない場合は、メールアドレス誤入力の可能性がございます。その場合は、お手数ですが、「メールアドレス確認(入力)フォーム」にメールアドレスを再入力・再送信してください。

STEP 2

参加費のお支払 【参加費支払締切: 2017年2月10日(金)】

申込み手続き完了後、払込票をお送りします。

期日までに、コンビニエンスストアで参加費をお支払いください。払込票の取り扱い可能店は払込票の裏面に記載しております。銀行・ゆうちょ銀行などの金融機関ではお支払いができませんのでご注意ください。

※お支払いいただく参加費につきましては、印刷費、WEBシステム運営費、通信費など、諸準備に使用いたしますので、いかなる理由があっても返金等には応じられません。ご了承ください。参加費をお支払いいただき欠席された報告集希望の方へは、後日報告集を送付いたします。

STEP 3

参加証(メール)の受領

参加費のお支払いが確認できましたら、参加証をメールにてお送りします。

2月18日(土)までに参加証(メール)が届かない場合は、FDフォーラム事務局までお問い合わせください。

STEP 4

当日 参加証(メール)持参

プリントアウトした参加証(メール)をご持参のうえ、受付にご提示ください。

※代理の方が参加される場合は当日の受付にてお申し出ください。

参加費用

所属	区分	シンポジウム・分科会	情報交換会	シンポジウム・分科会 + 情報交換会
加盟 大学・短期大学	教職員	3,000円	4,000円	7,000円
	学生(大学院生含)	無料	2,000円	2,000円
非加盟 大学・短期大学 その他団体・企業等	教職員 一般	5,000円	4,000円	9,000円
	学生(大学院生含)	1,000円	2,000円	3,000円

2日目(3月5日)の昼食について

- 会場及び会場周辺に飲食店が少ないため、お弁当を事前申込制で販売いたします。(税込1,000円お茶付)

FDフォーラム参加申込みの際に購入の有無を確認させていただきます。

購入希望者へは、お弁当代金(1,000円)を含んだ参加費払込票をお送りいたします。

お支払いが完了した方へは、フォーラム当日受付でお弁当引換券をお渡しいたします。

- 教養教育共同化施設内「Deli Cafeたまご京都北山」が営業しています。限定メニュー2品(各税込648円)のみの販売となります。注文後に調理を行うため、料理提供にお時間を頂戴いたします。ご了承ください。

URL <http://www.consortium.or.jp/project/fd/forum>

もしくは



●会場へのアクセス



駐車場について

1日目

京都コンサートホール

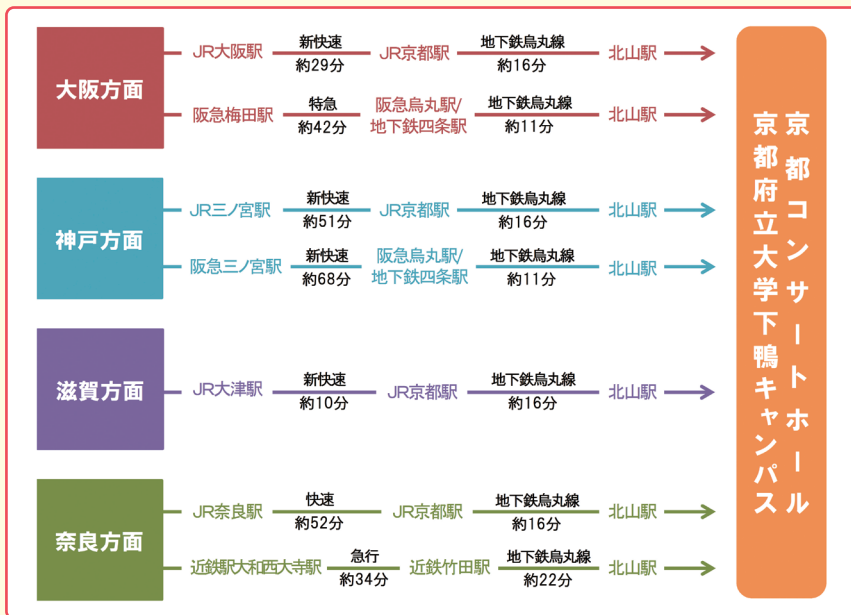
約100台収容可能な駐車場がございます。利用料金は30分ごとに250円です。
(車高制限2.1メートル)

2日目

京都府立大学下鴨キャンパス

学内には駐車場がございませんので、ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

- ◆北山駅から「京都コンサートホール」まで徒歩5分
- ◆北山駅から「京都府立大学下鴨キャンパス」まで徒歩7分



●京都府立大学下鴨キャンパスへのアクセス

- JR京都駅から
地下鉄烏丸線「北山駅」下車、正門まで南へ約600m
- 京阪出町柳駅前から
市バス1系統(西賀茂車庫行)「府立大学前」下車、正門まで北へ約350m
市バス4系統(上賀茂神社行)「北園町」下車、正門まで西へ約300m
京都バス32系統(広河原行)・34系統(静原城山行)・35系統(市原行)「府立大学前」下車、正門まで北へ約350m
- 四条河原町から
市バス4番(上賀茂神社行)「北園町」下車、正門まで西へ約300m
市バス205番(北大路バスターミナル行)「府立大学前」下車、正門まで北へ約350m

第22回FDフォーラム企画検討委員会 ★…委員長 ☆…副委員長

- | | |
|----------------------------------|--|
| ★児玉 英明 京都三大学教養教育研究・推進機構 特任准教授 | 林 雅清 京都文教大学 臨床心理学部 専任講師 |
| ☆佐藤 賢一 京都産業大学 総合生命科学部 教授 | 藤田 義孝 大谷大学 文学部 准教授 |
| 上野 嘉夫 京都薬科大学 基礎科学系 教授 | 藤原 智子 京都ノートルダム女子大学 生活福祉文化学部 教授 |
| 岡崎 祐司 佛教大学 社会福祉学部 教授/教育推進機構長 | 村上 正行 京都外国語大学・京都外国語短期大学 マルチメディア教育研究センター 教授 |
| 川島 健 同志社大学 文学部 教授 | 森原 規行 京都精華大学 デザイン学部 教授/教務部長 |
| 古倉 聡 京都学園大学 健康医療学部 教授 | 安江 勉 京都教育大学 教育学部 准教授 |
| 西野 毅朗 京都橘大学 現代ビジネス学部 専任講師 | 山口 洋典 立命館大学 共通教育推進機構 准教授 |
| 長谷川岳史 龍谷大学 学修支援教育開発センター長/経営学部 教授 | 山田 剛史 京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授 |

●お問合せ先



公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下るキャンパスプラザ京都内
教育開発事業部 FDフォーラム事務局
TEL:075-353-9163 (火~土 9:00~17:00 ※年末年始を除く)
FAX:075-353-9101 E-mail:fd@consortium.or.jp